October 2023・Issue 19　　認定NPO法人アジアキリスト教教育基金

創立
記念日号
10月28日

ACEF ニュースレター 2023年10月号

もくじ

- ＜巻頭言＞河見誠　前副理事長、ヘモント新BDP事務局長、高崎和子さん
- 「遺贈寄付・相続寄付」について
- ACEF：ICUサービスラーニングファンドレイジング GoFundMe
- 10月27日は読書の日：『SDGs時代の国際協力』①
- 11月3日三鷹教会バザーにACEFが出展します！
- 見逃し配信：ACEF2023年秋のセミナー
- ACEFユース：第６回ミーティングを開催しました
- 日本バングラデシュ協会主催「カラーチーに住む『ベンガリー』の子どもたちと教育」に参加して

※PDFのニュースレターはホームページよりダウンロードできます。
▶URL https://acef.or.jp/mail_mag_2023october/
※English version available on homepage!

↑2023年ACEF
夏のスタディツアーより

いつもACEFのメールニュースをご愛読いただきありがとうございます。ACEFの日本での活動とバングラデシュでのパートナーとの共働事業の今を伝えるために、会員、寄付者、イベント等で出会った皆さまにお送りしています。本日はご報告やご案内など8本の記事をお届けいたします。

Foreword ＜巻頭言＞ ACEFコミュニティについてご紹介

「ピンチはチャンスの産みの親」

（前副理事長・財務委員長　河見誠）

「2020年、ACEFは創立30周年を迎え、ビジョン、ミッションを定めて今、フレッシュに動き出しています。でもそこに至るのは簡単な道のりではありませんでした。私は2011年に立てられた財務委員会に12年携わってきたので、特に財政面で大変厳しい現実の連続であったことを実感しています。しかしその中で、ピンチはチャンスの産みの親である、ということも教えられました。

2000年代後半に入りACEFの収入が頭打ちになり、他方BDPスクールのニーズに応えるための送金は増加するという状況が続きます。2010年代になると様々な要因でさらに財政的に厳しくなり、送金も事務局人員も減らさざるを得なくなりました。ACEF運動の存続にかかわる深刻な事態が続きます。

しかし2020年前後に打開の動きが出てきます。BDPによる自立的資金獲得（マイクロファイナンス）の試行がクラウドファンディングにより始められ、また（コロナ状況の中で逆に出てきた）学生によるサービスラーニングやインターンによる新しい活動や事務サポート、オンラインによる業務委託やプロボノが事務局に新しい風を吹き込みます。厳しい現実に耐えて向き合い続ける中で、「寺子屋を贈ろう」「アジアに使命を持つ若者を育てよう」という創立以来の目標がさらに深化し、尊厳を持った人間同士というスタンスに基づいた新たな「共働」「共育」へと展開することになったのです。

　実は現在も収入額は、2010年代から十分にアップしておらず、大きな課題です。しかし収入源を見ると、クラウドファンディングが新しく登場し、助成金も多額になっています。ACEF運動はさらに裾野を広げた「共生社会」への働きになりつつあると言えるでしょう。「産みの苦しみ」を恐れることなく、希望を持って進んでいきたいと思います。」

「共に生きる　ACEFと私」（高崎和子 評議員）

「第２回スタディーツアーに参加して30数年が経ちました。船戸氏に声をかけられた時が、二男が寄宿舎に入り、そろそろ職場復帰を考えていた時だったので一週間位家を空けても大丈夫と、何も知らないけれど行ってみるか？と簡単に決めてしたいました。今思うに何も知らないで良かったのかなと思います。
ダッカに降り立った時の光景はここは何処、何、なんなの黒山人だかり、物乞いの人達で溢れかえって、いました。
声も出ない驚きでした。
主に招かれダッカの地に降り隣人と出会った時小さき者として、共に何が出来るのか考える時を与えられた事が私にとってACEF活動の原点になっています。
それから何度となくSTメンバーとして又仕事でと訪れ多くの出会いと経験を重ねました。いつも振り返り立ち返る場所は第二回スタディーツアーです。
ACEFも大きく変わって来ています。
若い人達が活発に新しい発見、経験を沢山して欲しいと願っています。」

Our Vision　（私たちの目指す世界）
一人ひとりの尊厳が大切にされて、共に生きる喜びを感じられる社会を目指します。

Our Mission（私たちの使命）

1.アジアの人々とのパートナーシップ ・共働から共に生きることの実践を模索する。

2. 未来の共生社会をつくりだす子ども ・ 若者の可能性を開くための教育活動を支援する。

3. バングラデシュと日本とが学び合い、 大人と子ども ・ 若者がともに育つ場をつくる。

BDPの新事務局長
ヘモント・コラヤさんよりご挨拶

「敬愛するACEF理事長、理事会メンバー、ACEFディレクター、スタッフ、日本の友人、そしてすべての応援者の皆さまへ。

こんにちは。2023年10月1日よりBDP（Basic Development Partner）のディレクターに任命されたことをお知らせでき嬉しく思います。BDPの理事会メンバー、スタッフ、ACEF、そして日本の皆さまに心から感謝いたします。まず短く自己紹介させていただきます。私はイグナティウス・ヘモント・コラヤと申します。BDPでの勤務歴は25年以上になります。BDPの前は、World Vision Bangladeshという団体でで働き、以来バングラデシュの子ども、女性そしてコミュニティ開発の仕事に30年以上携わっています。

BDPでの経験は、地方コミュニティとの良好な関係を築き、彼らの苦境を理解し、問題を緩和し、乗り越える方法を見つけることへの道を開いてくれました。

私は、日本で多くの友達と良好な関係を築いてきたことを幸せに思っています。ACEFとBDPの友情は30年以上続いており、私自身もACEFとBDPの絆を強めるために何度か日本を訪れる機会に恵まれました。日本を訪れるたびに、新しい日本の友人と出会い、古くからの友人と改めて関係を築くこともできました。また、多くの日本の幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、教会を訪れることができ嬉しかったです。

これまでの仕事を通じて、私は子どもたちには教育がなければ未来はないことを学んできました。この教育は、基本的なものから質の高いものまで含まれます。BDPは子どもに焦点を当てた国内NGOで、包括的な発展のために活動しています。特にバングラデシュの最貧困層の子どもたちに対する就学前ノンフォーマル教育と、初等教育と職業訓練の分野で活動しています。

すべての子どもにとって初等教育は基本的な権利であり、それは私たちの憲法で保障されています。現在、BDPは特に財政の安定においていくつかの課題に直面しています。しかし、BDPの学校を訪れた際に子どもたちの明るく笑う姿を思い出し、多くの友人や応援者がBDPの使命を支えてくれると信じています。

今後も日本の皆さまのサポートをいただきながら、BDPの優れた初等学校を運営し続けたいと思っています。神の守りの中でBDPのディレクターとして働くことは私にとって新しい挑戦で、糧となることを信じています。BDPと子どもたち、コミュニティ、BDPのチームやメンバーとの仕事はこれからも変わりません。BDPとACEF、特に会員や支援者の皆さまと共に、これからも引き続き強い友情を築いていくことを期待しています。

最後に、長年にわたる皆さまのBDPの生徒への関心、愛情、サポートに感謝いたします。献身的に支援してくれるすべての寄付者、教会のメンバー、特にACEFと理事会メンバーに心から感謝します。

私がバングラデシュの子どもと女性の発展のために仕事を続けられるよう、みなさんのお祈りとサポートをお願いいたします。
またお会いできることを楽しみにしています。

イグナティウス・ヘモント・コラヤ
Basic Development Partners (BDP)事務局長

ACEFへの遺贈・相続ご寄付

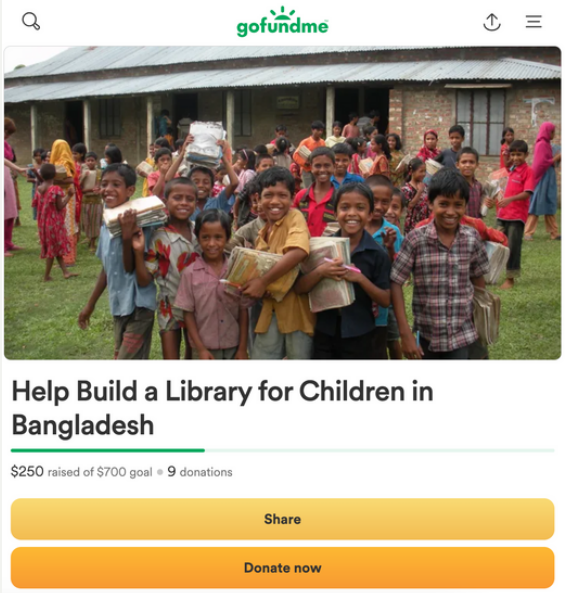
ACEFでは、これまでも所縁のある方々から、遺贈や相続のご寄付をいただいてきましたが、先日「お母様のご遺志」ということで、佐々木弘様・久美子様ご夫妻から、相続ご寄付をいただきました。お母様の朝子様は、生前ACEFの理事と長年交流があり、ACEFスタディツアーやバングラデシュについてご関心をお持ちだったとのことでした。最近、ご夫妻が同理事のFacebookで今年のスタディツアー参加者の報告の様子をご覧になり、いつもACEFに思いを寄せていたお母様だったら…ということで、ご相続の中から献金をしてくださいました。朝子様、そして弘様・久美子様ご夫妻の温かいお気持ちに心より感謝申し上げます。

ICUサービスラーニングファンドレイジング GoFundMe

https://gofund.me/bd069199 ×

「親愛なるACEFのメンバーおよび友人の皆様へ、

9月24日のセミナーでお会いした方もいれば、まだお会いしていない方もいるかもしれません。私の名前はイーサンです。現在、私は東京のICUで勉強しており、今回サービスラーニングのコースを通してACEFで学ぶことになりました。



まずはじめに、これまでACEFの皆さんが私たちを非常に温かく迎え入れてくださったことに感謝いたします。この1か月間で、私たちはACEFと協力して、BDPスクール1校に図書室を設置するための資金を募ろうとしています。同時に、ACEFについても広報活動を行っています。私たちの目標は、図書室を設置するために約10万円を集めることです。私たちは日本だけでなく、世界中の誰でも寄付ができるようにGoFundMeページを作成し、目標達成に向けて皆さまのご協力をお願いしています。現在、目標の4分の1以上の額に達しています！

ぜひGoFundMeを皆さんのお友達にも共有していただければ大変嬉しいです。小さすぎる寄付はありません！

国際基督教大学4年　イーサン・グレイ」

Here

10月27日は読書の日！『SDGs時代の国際協力』のご紹介

■ ICUサービスラーニングでACEFに関わっている加藤陽花です。まず、この本の著者の3人をご紹介します。

・井上儀子さん（第2章担当）はACEFに30年近く勤め、バングラデシュへの渡航は57回にも及ぶ

・小野道子さん（1章、3章担当）は大学時代にACEFのスタディツアーに参加したことをきっかけに、子ども支援家として国内外で活躍

・西村幹子さん（3章、4章担当）は同じく大学時代にACEFスタディツアーへ参加したことをきっかけに、大学で教育社会学と国際教育協力論を教えている

■ 本の主旨…国際協力

・（国境を越えた交わりを経た参加者から）国際協力の何が人を育てるのか

・BDP小学校を卒業した子ども達が、卒業後何を思い、どのように生きているのか→国際協力の双方向性

■ 1章　～バングラデシュについて～

ベンガル語が公用語の90%以上イスラム教の国である。1971年に9ヶ月の戦争を経て独立した。1947年にパキスタンの東パキスタン州として独立したが、経済的恩恵を受けられないこと・東パキスタン州の住民大多数が話すベンガル語ではなくウルドゥー語を強要されたことによって独立への動きが強まった。バングラデシュは親日国家である。暑いイメージを持つ人もいるかもしれないが、6月～10月初旬までは雨季で、12月～2月くらいまでは防寒着を持っていなければ厳しいほど寒くなる地域もある。

～成長するバングラデシュの表と裏～

1990年代まではバングラデシュは最貧国というイメージがあったが、2000年以降は製造業のおかげで目覚ましい勢いで経済発展している。空港ではかつてボロボロの衣服を纏った人の姿をよく見かけていたが、中流階級以上の人で溢れるようになった。経済発展は街を見ていても明らかで、舗装道路が増え道路沿いには高級ホテルをいくつも構え、高層ビルも聳え立っている。その一方で、経済格差も広がっており、貧しい人たちの生活は変わらないにも関わらず物価は年々上昇するなど厳しい生活を強いられている。また、安心できる労働環境下で働くことができない人たちもいる。

～教育制度～

バングラデシュでは5年間の初等教育・7年間の中等教育がある。政府は初等教育（小学校）を義務教育にして学費を無償にしたり、一定の出席率で登校すると小麦や米が支給されるなど通学の支援策を実施している。しかし、修了認定のための国家試験がある学年で合格しなければ次の学年には進めないため、小学校でさえ全員が卒業することは叶わない。また、試験に合格するだけでなくいい点数を取らないとその後に影響するため、試験に追い立てられていると言える。このようなことから、富裕層では低年齢からの教育熱が高まっている。

by
国際基督教大学
加藤陽花

～就学率向上の光と影～
上述したように教育への関心が高まっているため、初等教育の就学率は100%に近くなっている。しかし小学校を卒業できるのは約80%、中学校進学できるのは67%といわれ、教育機会から取り残されている子ども達もまだまだ存在する。男女間の就学率・修了率の差においては、女子に奨学金を配布するなどの政策で現在随分と解消されてきている。最近は女性の学歴が高いことがより良い結婚相手を見つけるのに有利なことから、ある程度の学歴を身につけていることが推奨されている。しかしまだ女性の労働が好ましく思われていないことも多く、早く結婚させなければと焦る親たちもいて、学業途中で結婚する子どもも少なくない。そのことから、バングラデシュは世界で4番目に児童婚率が高い国であると言われている。

～MDGs優等生としてのバングラデシュ、SDGs達成に期待されること～
バングラデシュはSDGsの前身であるMDGs達成について、残された課題はあるものの国際的に高い評価を得た。そのことからSDGs達成においても注目されており、教育の指標は初等・前期中等教育修了率100%、学校内の電気やインターネット、飲料水やトイレの整備、障がいのある生徒も心地よく過ごせる学校を作ることなど挙げられている。政府は民間との連携をとりながらこれからも達成に向け努力していくだろう。

（国際基督教大学　加藤陽花）**次回に続く！**

11月3日　南三鷹教会バザーにACEFが出展します！

日本キリスト教団 南三鷹教会にてサービスラーニングの学生がベンガルティーを用意します！ぜひお越しください。

【アクセス】日本キリスト教団 南三鷹教会
JR吉祥寺駅、または三鷹駅よりバスにて「三鷹農協前」で下車、徒歩2分です。
バスは下記のどれでも結構です。

・吉祥寺駅から 吉01「武蔵境駅南口」行き、 吉06「調布駅北口」行き
・三鷹駅から 鷹54「仙川」行き「晃華学園東」行き、鷹55「野ケ谷」行き

見逃し配信のご案内
2023年ACEF秋のセミナー

YouTubeのACEFユースのチャンネル登録はこちらから！
→

第1部
https://youtu.be/SAfrx15KowU?si=btd4dffdR3po8zXm
第2部
https://youtu.be/CR7I-FqNtCs?si=CD4EX2WoXAqKZkGe

ACEF YOUTH 第６回ミーティングが開催されました

ACEF YOUTHって？→　ACEFでは高校生、大学生、社会人などいろいろなYouthが、教育・開発・貧困解決などそれぞれの関心分野で様々な活動に関わっています。ACEF YOUTHはそのメンバーからできたチームです。今回のミーティングでも様々なナイスアイデアが出てきました！ぜひお楽しみに！

ACEF YOUTHでは、SNS配信や早稲田のACEF事務所でハンディクラフトのボランティア活動に携わるなど、一人ひとりのパッションと才能が生かされています。興味がある方は、ぜひお気軽にACEF事務局にご連絡ください。メールアドレス：public@acef.or.jp

ACEF Youth

ICU Service Learning: 2023 Autumn

「日本バングラデシュ協会主催「カラーチーに住む『ベンガリー』の子どもたちと教育」に参加して

　10月14日、東洋大学福祉社会デザイン学部 小野道子准教授によるセミナーに参加しました。テーマは、パキスタンのカラーチー市で暮らす「ベンガリー」と彼らの教育。カラーチー市の「ベンガリー」とは、バングラデシュ出身のムスリムベンガル人とミャンマー・アラカン地方出身のムスリムのことを指します。

　今回学んだ一つの大きな課題は、「ベンガリー」の推定6割以上は、無国籍状態にあるということです。極度なID社会であるパキスタンにおいて、市民権を持たない「ベンガリー」たちは、まともな職が得られない、長距離交通機関、銀行口座、生活保護へのアクセスがないなどの困難を抱えています。また、今回のテーマである教育については、9年生以上に進級することができません。

　しかし、この無国籍問題に対応する動きは、国際、国内ともにほぼありません。かろうじて、現地の貧困層向けの支援が彼らを救い上げているのが現状です。パキスタンの情勢からして、国際社会が大々的に認知を高めたり、支援を行うことは難しいと考えられます。しかし、このような状況においてこそ、草の根で認知を高め、現地の支援団体を支えていく、市民団体・社会の活動が求められるのだと思いました。」　（ACEFユース　山田明日見）

find us on social media!

ココからフォロー→ https://linktr.ee/acef.ngo

（特活）アジアキリスト教教育基金（ACEF）
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館26号室
tel 03-3208-1925 fax 03-6278-9180
担当：出立　メールニュースについてのご意見や配信停止はpublic@acef.or.jpまで